

エイディス・インサイト

AdisInsightで患者ケアの差別化を

オーストラリア公立大学病院薬剤部におけるケーススタディ

このケーススタディでは、AdisInsightが業務にどのように役立っているのかを詳しく知るため、オーストラリアにある公立大学病院の医薬情報薬剤師(Medical Information Pharmacist)の方々に話をうかがいました。この病院では数年前にAdisデータベースを導入してから、週に何回もデータベースを利用されています。

Case
study

医薬情報チームの役割

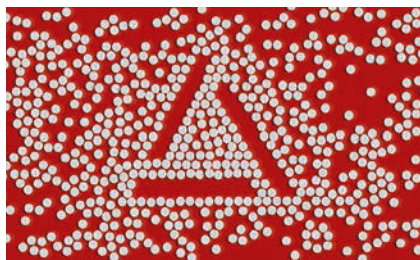
医薬情報(MI)チームは薬剤師4名で構成されており、院内の医療関係者(HCP)のみならず、地域で活動する医療関係者のサポートも行っています。HCPは、薬物相互作用や過量投与などの潜在的な有害事象に関する医薬関連の質問をMIチームに連絡します。MIチームは各ケースを調査してエビデンスの概要をHCPに提供し、HCPはその概要を各患者の臨床状況に当てはめ、治療方法の決定を伝えます。

こうした業務の最も困難な点のひとつが、多くの情報源から素早く関連情報を引き出さなければならないことです。多くの場合、情報は直ちに必要であり、あらゆる工程を1時間以内に完了しなければなりません。

「たとえば薬物相互作用の場合、関連する臨床情報を見つけ出すのは大変です。入手できる医薬品安全性情報は膨大な量なのですが、多くの領域のデータベースに分散しており、しかもそれぞれが完全な臨床像や事例を提供してくれるわけではありません。」

AdisInsightを利用する

通常、薬剤師は各事例のエビデンスの収集のため、複数の情報源を参照します。MIチームでは、まず既知の有害事象をラベルの情報から確認し、次に**AdisInsightのSafetyデータを検索して、国際的な文献で発表された最新の有害事象がないかチェックします**。この個別症例安全性報告(ICSR)には、治療やアウトカムの詳細が含まれており、有害事象や相互作用に関連する完全な臨床像を得るのに役立ちます。必要であれば、Safetyコンテンツのプロファイルに掲載されたリンクをたどることで、さらなる調査のために出典元にたどりつくことも可能です。



「こうした情報が一か所で入手できる
唯一のリソースです」

MIチームが最も多く利用しているのはAdisInsightのSafetyコンテンツですが、**Drugs**や**Trials**のコンテンツも有用だと考えています。患者は特定のアクセス手段を使って、海外では販売されているが、オーストラリアでは販売されていない薬剤を入手できるため、MIチームは潜在的な有害事象の問題に対応すべく、そうした薬剤のさらなる情報も入手する必要があるからです。

AdisInsightのメリット

「一から文献検索することに比べて、AdisInsightは時間の節約だけでなく、作業負担も軽減されますし、他のデータベースより頻繁に更新されています。AdisInsightのデータベースには、症例報告や有害事象の文献といった独自のコレクションが提供されており、こうした情報が一か所で入手できる唯一のリソースです。特に気に入っている点は、プロフィールからリンクをたどることで、発表されている文献にたどりつけるところです。」



AdisInsight

Adisは、文献から薬剤の副作用症例報告をモニタリングする、最も包括的かつ信頼性の高い世界規模のサービスをご提供します。商業用開発医薬品、臨床試験、医薬品の安全性、会社取引といった最も重要な情報を、ひとつの使いやすいデータベースとして提供することで、処方や処方の意思決定をサポートします。

AdisInsightには以下の内容が含まれています：

- 世界中の商業用開発医薬品に関する科学的情報およびマーケット情報
- 国際規格に沿い、商業用開発医薬品の発展のために実施された重要な臨床試験情報
- 吸収合併、合併事業、ライセンス契約、研究開発協定、開発協定、製造契約および流通販売契約などの簡潔なサマリー
- 医薬品副作用症例報告および規制当局のニュースを含むSafetyレコード

Contact
us!

AdisInsightのご利用は、年間ライセンス契約となります。
トライアルも受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

お問合せ: market@springer.jp

製品URL: adisinsight.springer.com

製品紹介サイト(日本語): adisinsight.jp

製品紹介サイト(English): adisinsight.com